

「汚れた霊ども」

マルコの福音書 3:9~12

はじめに

今日の箇所は、イエシュアが弟子たちを連れてガリラヤ湖に行かれた際、そこにイエシュアを求めて様々な地方から非常に大勢の人々が集まって来た時の出来事を記した箇所です。病気に悩む人たち、汚れた霊どもに苦しむ人たちが、癒され、解放されることを求めて、イエシュアのみもとに押し寄せて来たのでした。

【新改訳 2017】 マルコの福音書

3:9 イエスは、群衆が押し寄せて来ないように、ご自分のために小舟を用意しておくよう、弟子たちに言われた。

3:10 イエスが多くの人を癒やされたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押し寄せて来たのである。

1. 小舟

まずここでイエシュアは「小舟」を用意するよう弟子たちに命じておられます。「舟」のことをヘブル語でオニツヤー(אֲנִיָּא)と言い、創世記 49:13 にその最初の言及がありますが、この創世記 49 章はアブラハムの子イサクの子ヤコブ、すなわちイスラエルがその死の間際に息子たちを呼び寄せ、「私は、終わりの日におまえたちに起こることを告げよう。(創世記 49:1)」と言って語られた、預言とも言える彼の遺言です。

【新改訳 2017】 創世記

49:13 ゼブルンは海辺に、船の着く岸辺に住む。その境はシドンにまで至る。

ヤコブが十男ゼブルンに対して語った預言、そこに聖書で最初の「船」オニツヤーがあります。「船の着く岸辺」は、そのすぐ前の「海辺」が言い換えられた並行による強調表現、パラレリズムだと考えられます。前回のメッセージでこの「海」を意味するヘブル語のヤーム(יָם)には本来、その最初の言及である創世記 1:9~10 から「神の仰せにより天の下に集められる」という意味合いがあることを述べました。ですからこのヤームの言い換えとして記されたオニツヤーの、その最初の言及にもまた同様の意味合いがあると考えられます。そしてこれらはどちらも「住む」という一つの行為を指し示しています。これをシャーハン(שָׁחַן)と言い、本来は創世記 3:24 で「いのちの木への道を守るためにエデンの園に置かれる」ことを最初の言及とする言葉です。ですから「船の着く岸辺に住む」とは、エデンの園に住むことの「型」、たとえとした表現であると考えられ、イエシュアが弟子たちに用意するよう命じた「小舟」オニツヤーが指し示す神のご計画であると考えられます。またそれは「小舟」つまり「小さ

い」舟でした。この「小さい」をヘブル語でカートーン(קטן)と言いますが、創世記 1:16 にあるその最初の言及から、本来は「権威、統治」を指し示す言葉であると考えられます。

【新改訳 2017】創世記

1:16 神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼を治めさせ、小さいほうの光る物には夜を治めさせた。

これは神の天地創造の御業の第四日を記した箇所です。「小さいほうの光る物」、ここに聖書で最初のカートーンがあり、神はこれに「夜を治めさせた」すなわち権威をお与えになったことが記されています。このように「小さい」という日本語の持つ概念が邪魔をして、なかなか理解しづらいのですが、カートーンには本来、支配する、統治する権威を指し示す意味合いがあると考えられます。ですからイエシュアが弟子たちに用意させた「小さい舟」、「小舟」には、**エデンの園に住み、そこを治める権威が神から与えられる**という意味があると考えられます。ちなみに「舟」オニツヤーの最初の言及で取り上げた創世記 49:13 に「シドン」という地名が記されていますが、前回のメッセージでこの名には**神の御前に立つ権力者**という意味があると述べた事実もこれに結びつきます。ですから「**イエスは、群衆が押し寄せて来ないように、ご自分のために小舟を用意しておくよう、弟子たちに言われた。**」という御言葉には、イエシュアがただ単に押し寄せて来た群衆から離れるために「小舟」を用意させたというだけではなく、**イエシュアのみもとに集められる民が、回復されたエデンの園である「神の国、御国」に住む者とされ、そこを治める権威が与えられる**という神のご計画の完成が指し示されていると考えられます。

また「**群衆が押し寄せて来ないように**」という箇所に「押し付ける、圧迫する、迫害する」という意味のダーハク(דחק)という動詞が使われていますが、これは本来、士師記 2:18 にその最初の言及があり、神がイスラエルの民の嘆きを聞いて憐れまれ、敵の圧迫、虐げを退けられることを指し示す言葉であると考えられ、神のご計画が、**虐げられたイスラエルとそれにつながる民への救済措置**でもあることがここに示されていると考えられます。聖書の中および人類史の中で、イスラエルの民、ユダヤ人は常に圧迫、迫害の対象として、今日もなお敵の脅威に晒された状態にあります。以前私はイスラエルに住んでおられたある先生に、現地の情勢について伺ったことがあります。するとその先生はこう答えられました。「イエシュアが再臨されるまでイスラエルが安全に、平和になることはありません」と。それはつまりイスラエルを敵から救い出し、この民に権威を与えて完全に平和をもたらすことは人の計画でも人の業でもなく、神のご計画であり、神の御子、メシアであるイエシュアこそが、この御方だけがそれを成し遂げられるのだということです。その事実が、イエシュアのみもとに「**群衆が押し寄せて来ないように**」という記述の中に指し示されていると考えられます。

2. さわる

多くの病人たちがイエシュアのもとに押し寄せて来ました。その目的は癒されるためにイエシュアに「**さわろうとして**」とあるように、イエシュアに触るためでした。これをヘブル語でナーガ(נגע)と言い、創世記 3:3 にその最初の言及があります。

【新改訳 2017】創世記

3:3 しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。

これはエデンの「園の中央にある木の实」、善悪の知識の木の実についてアダムの妻エバが語ったものですが、「食べてはならない」という言葉の並行による強調、パラレリズム的に語られた「触れてもいけない」という言葉が聖書で最初のナーガです。そして善悪の知識の木の実を食べる、すなわち「さわる」ならば「あなたがたが死ぬ」ことが示されており、ナーガには本来「死ぬ」という意味が指し示されていると考えられます。ですからイエシュアに「さわろうとして」押し寄せて来た多くの病人たちにさわらせないように小舟に乗りこまれたイエシュアの行動には、イエシュアのみもとに集められた者は決して死ぬことがない、つまりイエシュアとともに永遠に生きる、永遠のいのちが与えられるということが表されていると考えられます。

【新改訳 2017】マルコの福音書

3:11 汚れた霊どもは、イエスを見るたびに御前にひれ伏して「あなたは神の子です」と叫んだ。

3:12 イエスはご自分のことを知らせないよう、彼らを厳しく戒められた。

3. 汚れた霊ども

(1) 見る

「汚れた霊ども」すなわち悪魔、悪霊とも呼ばれるものたちがイエシュアを「見る」とあります。これをヘブル語でラーアー(לָרָא)と言い、創世記 1:4 にその最初の言及があります。

【新改訳 2017】創世記

1:3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。

1:4 神は光を良しと見られた。神は光と闇を分けられた。

天地創造の御業の第一日、「神は光を良しと見られた。」ここにラーアー本来の持つ意味があると考えられます。そしてこれもまたパラレリズムとして「神は光と闇を分けられた。」という言葉に言い換えられて表現されていると考えられます。ですから「見る」と訳されたラーアーには本来、神が目を留められるものとそうでないものを分ける、裁くという意味があると考えられ、その場合この「汚れた霊ども」は当然、神が目を留められるものから分けられ、離されることが「汚れた霊どもは、…見る」という箇所に表示された神のご計画であると考えられます。

(2) ひれ伏す

そして次に「汚れた霊どもは、…ひれ伏して」とあります。ここで使われている「ひれ伏す」という意味の動詞はナーファル(לָפַד)と言い、創世記 2:21 にその最初の言及があります。

【新改訳 2017】創世記

2:21 神である【主】は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。

これは神が最初の人アダムの骨からその助け手である妻エバを造り出す場面ですが、神がアダムを深い眠りに「下された」という出来事に、ナーファル本来の意味があります。それは「人は眠った」とあるように、文字通りそのような状態、状況を指すと考えられます。すなわち機能停止、動けなくなる、働けなくなるという状態です。また「そのところを肉でふさがれた」と記されていますが、ここで使われている「脇腹、肋骨」を意味するツェーラー(צֶלַע)には「扉」という意味もあり「扉が閉じられた」と訳すこともできます。「汚れた霊ども」が閉じ込められ、一切の働きを封じられるという出来事がこの「汚れた霊どもは、…ひれ伏して」という記述に表されていると考えられます。ヨハネの黙示録 20:1～3にもこう記されています。

【新改訳 2017】ヨハネの黙示録

20:1 また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。
20:2 彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、
20:3 千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に封印をした。その後、竜はしばらくの間、解放されることになる。

これはイエシュアが地上に再臨され、メシア王国とも呼ばれる千年王国が始まる時「汚れた霊ども」すなわち悪霊たちおよびそのかしらであるサタンが、「底知れぬ所」という穴に投げ落とされ、「千年の間」そこに閉じ込められることを示しており、これもまた神のご計画の一部であることがこの「汚れた霊どもは、…ひれ伏して」という記述に表されていると考えられます。

(3) 叫ぶ

また「汚れた霊どもは…「あなたは神の子です」と叫んだ。」ともあります。ここに「叫び求める」という意味の動詞ツァーアク(צָאַק)が使われています。この最初の言及は創世記 4:10 です。

【新改訳 2017】創世記

4:8 カインは弟アベルを誘い出した。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。
4:10 主は言われた。「いったい、あなたは何ということをしたのか。声がある。あなたの弟の血が、その大地からわたしに向かって叫んでいる。
4:11 今や、あなたはのろわれている。そして、口を開けてあなたの手から弟の血を受けた大地から、あなたは追い出される。

これは人類史上最初の殺人である、アダムの二人の息子、兄カインが弟アベルを殺す出来事です。カインがアベルを殺し、その「血が、その大地からわたしに向かって叫んでいる。」という記述に聖書で最初

のツァーアクがあります。その結果、カインは「のろわれ」、そして「大地から…追い出される」ことが告げられています。このようにツァーアクには本来、のろわれ、地から追い出されるということが指し示されていると考えられます。ですから「汚れた霊どもは…叫んだ。」という記述には、サタンと悪霊たちはこの地上から追い出され、先ほども述べたように一切の働きが封じられてしまうことが、イエシュアが地上再臨され、イスラエルをはじめとするご自分の民をみもと集められる時に成就する神のご計画であることが「型」たとしてここに表されていると考えられます。

4. 戒める

汚れた霊たちはイエシュアを見て「あなたは神の子です」と言って叫びました。しかしイエシュアはこれを制して「ご自分のことを知らせないよう、彼らを厳しく戒められた。」とあります。この出来事は一体何を表しているのでしょうか。「戒める」という意味の動詞ワード(טָוַן)がここに使われています。この最初の言及は創世記 43:3 です。

【新改訳 2017】創世記

43:1 さて、その地の飢饉は激しかった。

43:2 彼らがエジプトから持って来た穀物を食べ尽くしたとき、父は彼らに言った。「また行って、われわれのために食糧を少し買って来てくれ。」

43:3 すると、ユダが父に言った。「あの方は私たちを厳しく戒めて、『おまえたちの弟と一緒になければ、私の顔を見てはならない』と言いました。」

これはエジプトの宰相となったヨセフが、末の弟であるベニヤミンを自分もとに連れて来るように自分の兄たちに命じた出来事についてのものですが、ヨセフが兄たちを「厳しく戒めて」命じた箇所に聖書で最初のワードがあります。それはすなわち命令を聞かなければ、従わないなら「私の顔を見てはならない」、決して近づいて来てはならないという内容を指していました。これがワード本来の持つ意味であると考えられます。またイエシュアが汚れた霊たちを「厳しく戒められた」その内容とは、誰にも「ご自分のことを知らせないよう」に、というものでした。ここに「明らかにする、脱ぐ」という意味の動詞ガーラー(הָלַךְ)が使われています。この最初の言及は創世記 9:21 です。

【新改訳 2017】創世記

9:20 さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作り始めた。

9:21 彼はぶどう酒を飲んで酔い、自分の天幕の中で裸になった。

これはかつて全世界を水没させた大洪水の中を生き残ったノアのその後を記したものですが、彼はぶどう園の農夫となり、「ぶどう酒を飲んで酔い、自分の天幕の中で裸になった。」という箇所に聖書で最初のガーラーがあります。ノアが「自分の天幕の中で」自分が住むべき家の中で完全に安心しきっている様子が記されています。このようにガーラーには本来、天幕の中、家の中で安息を得ることが指し示されていると考えられます。しかし「イエスはご自分のことを知らせないよう」にと、ここではそのガー

ラーが否定的に使われていますのでその指し示す意味もまた逆となります。ですから「イエスはご自分のことを知らせないよう、彼らを厳しく戒められた。」という出来事には、汚れた霊、悪霊、サタンはイエシュアに近づくことも、顔を見ることもできなくなり、その天幕、家である神の国の中に、決して入ることはできないということが神のご計画として表されていると考えられます。

5. 敵の神

今日の内容を表にまとめると以下のようになります。

マルコ	語句	語源	最初の言及	神のご計画
3:9	小舟	カートーン「小さい」	創 1:16	権威が与えられる
		オニツヤー「船」	創 49:13	エデンの園に住む
	押し寄せて来ないように	ダーハク「迫害する」	士 2:18	イスラエルの民への救済措置
3:10	さわろうとして	ナーガ「さわる」	創 3:3	決して死ぬことがない
3:11	汚れた霊が…見る	ラーアー「見る」	創 1:4	神は悪魔を裁く、分ける
	汚れた霊が…ひれ伏す	ナーファル「落とす」	創 2:21	悪魔は封じ込められる
	汚れた霊が…叫ぶ	ツァーアク「叫ぶ」	創 4:10	悪魔は地から追い出される
3:12	彼らを…戒める	ワード「戒める」	創 43:3	悪魔はイエシュアに近づけない
	ご自分を知らせない	ガーラー「脱ぐ」	創 9:21	悪魔は神の国に入れない

このように、神のご計画とは、神に選ばれた者、聞き従う者に対してだけのものではなく、サタン、悪霊、そしてそれに従う者すなわち神に逆らう者、聞き従わない者に対して指し示されたものでもあります。神はご自分の民は必ず救い出され、神の国へと導かれますが、そこにご自分の敵はもはや絶対に立ち入らせないこと、そして彼らに対する措置、裁きの内容についても今日の記述の中に表しておられると考えられます。このように、私たちの神は、神に選ばれ、聞き従う者にとってはもちろん、神に敵対するもの、聞き従わない者にとってもやはり神であられるのです。それが 3:11 汚れた霊どもは、イエスを見るたびに御前にひれ伏して「あなたは神の子です」と叫んだ。という出来事の中にまさに表されているように、イエシュアは私たちにとっても、悪魔、敵であるサタンにとっても「神の子」であることを覚え、そしてこの悪魔のわざを打ち破り、退ける御方（Iヨハネ 3:8）であることを覚え、この御方が来られるのを待ち望みましょう。主イエシュアよ、来てください。